

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	<p>学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送られるように、学生生活全般の充実とそのためキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンター(以下、VC)は、正課外教育の観点から、「学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として」(明治大学ボランティアセンター(以下、VC)規程第1条；【1-44-1】)いる。</p> <p>明治大学VCは、上述の目的を達成するために、大別して次の4つ業務を行っている【1-44-1】。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティア活動に関する情報収集・広報活動 2 ボランティア活動に関する相談・支援 3 ボランティア活動に参加する学生の人材養成 4 ボランティア活動に関する調査・研究 <p>駿河台VCでは、千代田区と連携して「防災」関連の活動の他、地域連携の企画を実施、和泉VCでは杉並区を超え世田谷区でも活動を始めたほか、「福祉」の範囲を超えた活動を実施、生田VCでは、川崎市多摩区等と連携して、「自然」や「サイエンス」をテーマとした入門プログラムを開催する他、学生のさまざまなボランティアスタイルに沿った支援を実施している【1-44-2～5】。なお、2013年度に開設された中野VCに関しては中野区との連携については決まっているものの、活動のテーマに関しては活動の実績を勘案して決めていく予定である。</p> <p>また、2013年度も学長の下に設置された「震災復興支援センター」と連携して、東日本大震災被災地におけるボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成申請の受付業務を行った【1-44-3】。</p>	<p>生田VCのコーディネーターが中心となって、VCのホームページの改修を行い、学生への情報発信が迅速に行えるようになったことで、キャンパスの垣根を越えた企画参加が増加した。</p> <p>駿河台VCが中心となり、災害救援班による「AED講習」「震災クロスロード・ゲーム体験講座」「災害対応シュミレーション講習」を実施し、防災への関心を高めた。和泉VCでは、障がい者と健常者が一緒に楽しめる「ローリングバレー」や「バリアフリー映画祭」、明大祭での展示や活動紹介など、学生の発案による新たな企画を実施したことにより一般学生の参加が増加した。生田VCでは、川崎市多摩区等と連携して「自然」や「サイエンス」をテーマとした入門プログラムを開催する他、学生のさまざまなボランティアスタイルに沿った支援を実施し、参加学生の層が拡大した。</p> <p>また、東日本大震災被災地におけるボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成申請については、前年度より300件程度増加し、学生の被災地ボランティアの意識が高まった。</p>	<p>ボランティア活動の推進及び発展のため、行政、他大学、近隣地域との交流及び連携を深め、幅広い活動を目指し、キャンパスを超えて連携できる活動が必要である。</p> <p>2013年度から開設された中野VCでは、センターの機能強化、学生の組織化が必要である。</p> <p>今後、ボランティア活動のさらなる活性化が予想されるため、駿河台、中野VCにも専門知識を有するボランティア・コーディネーターの配置が必要である。</p> <p>また、東日本大震災被災地におけるボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成申請については、学生に対する各キャンパスの対応を同一化させることが重要である。</p>		<p>駿河台VCでは、学生スタッフ「Tree」が、「エコキャップ」だけでなく、ボランティア活動全般に取り組み幅広い活動を目指す。</p> <p>さらに、「災害救援班」の募集方法や活動を見直すことにより、学部・学年の枠を超えた活動とすることで活性化を図る。また、大学と連携し、学生だけでなく、教職員への防災活動参加を図る。</p> <p>和泉VCでは、和泉キャンパスから駿河台キャンパスに進級する学生がボランティア活動を継続できる仕組みづくりをボランティア・コーディネーターが中心になって検討する。</p> <p>生田VCでは、さまざまなボランティアスタイルの学生をさらに広く支援の対象と、生田の学生の個性とニーズに沿った環境を提供することを目指す。</p> <p>中野VCでは、各キャンパスのVCと連携を図りつつ、中野キャンパス独自の社会・地域との関わり方、システムやルール作りを検討する。</p>	<p>1-44-1 明治大学ボランティアセンター規程</p> <p>1-44-2 明治大学ボランティアセンターパンフレット</p> <p>1-44-3 2013年度明治大学ボランティアセンター活動報告書 ※2014/6/30発行</p> <p>1-44-4 和泉VC「ぼらぼん」(ボランティア活動紹介パンフレット)</p> <p>1-44-5 生田VC「生田キャンパスのボランティア」チラシ</p>
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	<p>学生も含めた大学構成員への周知方法であるHPの改修を行い、迅速な情報発信を行えるようになった。平行して、Oh-o!Meiji, インフォメーションボード(IFB)等でも周知している。</p> <p>また、明治大学ボランティアセンターのパンフレット【1-44-2】についても、中野キャンパスの活動を掲載したものを作成し、さらなる周知活動を行っている。</p> <p>これとは別に、和泉VCでは、ボランティア活動を紹介した「ぼらぼん」【1-44-4】を、生田VCでは、生田ボランティアセンターの活動を掲載したチラシ【1-44-5】を、それぞれ作成し、学内外に対してその活動を発信している。</p>	<p>ボランティアセンターのHPを改修したことにより、他キャンパスでの企画に学生が参加するようになった。</p> <p>また、大学広報への活動記事の積極的な提供や、ポスター掲示、Oh-o!Meiji, インフォメーションボード(IFB)等の周知により、VCの来室者数が増加した。</p>	<p>VCの理念・目的及びその活動内容を大学構成員に対して、さらにより効果的に情報発信していく必要がある。</p>		<p>今まで各キャンパスで作成していた活動報告書の中野を含めた4キャンパス合冊にし、新たに「明治大学ボランティアセンター活動報告書」として発行し、学内外への周知を拡大させる。</p> <p>また、HPの更新を頻繁に行い、常に新しい情報を発信していく。</p>	<p>1-44-2 明治大学ボランティアセンターパンフレット</p> <p>1-44-4 和泉VC「ぼらぼん」(ボランティア活動紹介パンフレット)</p> <p>1-44-5 生田VC「生田キャンパスのボランティア」チラシ</p>
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	<p>2012年度から、VC運営委員会においてVCの理念・目的等を定期的実施することとし、2013年度も実施した。これまで、VC運営委員会は年に一度、各キャンパスVCの活動の計画と実践、並びに予算と決算、VC全体の業務総括を中心として1年ごとの業務検証を実施してきた。2012年度からは、9月及び3月に半年ごとにVC運営委員会を開催することとし、これまでの業務検証に加えて、VCの業務と活動実践がVC理念・目的等に照らしての適切性についても検証することとした【1-44-6】。この決定に即して、2013年度も9月及び3月に実施した(根拠資料)。</p> <p>また、この変更に合わせて、各キャンパスVCのボランティア活動支援分科会においても、2013年度から年に2回以上、定期的な検証作業を実施することにした【1-44-6】。</p>	<p>VC運営委員一人一人が、VCの活動状況を把握し、VCの企画に参加する機会がみられた。</p>	<p>各キャンパスVCで1年毎の業務検証を実施してきたが全学のVC運営委員会で検証する必要ある。</p>		<p>VCの自己点検・評価について、そのあり方や進め方について検討し、実施に向けて着手する</p>	<p>1-44-6 ボランティアセンター運営委員会議事録</p>

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	<p>明治大学ボランティアセンター（以下、VC）は、その理念・目的に照らして適切に運営されている。</p> <p>また、各キャンパスVCは、次のような活動を新たに加えることによって、社会の要請についても、十分に配慮して運営されている。すなわち、駿河台VCでは、「神田すずらんまつり」や「神保町ブックフェスティバル」でのボランティア活動の他、高齢者サロンでのイベントを企画・運営した。和泉VCでは、継続的に杉並区との連携を実施したほか、新たに世田谷区でも活動を開始した。生田VCでは、川崎市、近隣の生田地域などと新たな連携が生まれ他、福島県飯館村との連携も継続している。</p> <p>ちなみに、駿河台VCにおいて、エコキャップ班として発足した学生の活動母体は2013年度、Treeと名称を改め、エコキャップの活動以外にも広範なボランティア活動を展開している。この動きは、社会の要請を学生たちが独自に捉えたものであるとともに、ボランティア活動をする中で、学生たち自身が成長していることの証左である【2-44-1～2】</p>	<p>駿河台VCでは、学生の活動母体が広範な活動を行えるようにTreeと名称を改めるとともに、その「Tree」の学生による高齢者サロンでのイベントを企画・運営とおして、学生の自主性がみられた。</p> <p>和泉VCでは、さまざまな活動をとおして、ボランティア活動数が前年より3割増加した。</p> <p>生田VCでは、新プログラムの開始により、新たな学生層の参加が促された。</p>		<p>駿河台VCでは、「Tree」による新たな企画を推進し、社会の要請に応じていく。</p> <p>和泉VCでは、地域のニーズに配慮し、地域との連携ができる体制を目指す。</p> <p>生田VCでは、理系向けプログラムのさらなる発展を目指す。</p>		<p>駿河台及び中野VCに専門知識を有するボランティア・コーディネーターを配置する他、VCのスペースを確保する。</p>	<p>2-44-1 ボランティアセンター運営委員会議事録</p> <p>2-44-2 2013年度明治大学ボランティアセンター活動報告書（2014/6/30発行）</p>
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	<p>各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施している。それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会において、VCの組織の適切性を定期的に検証している。</p>		<p>VC運営委員会の開催を9月と3月開催に定例化し、これに合わせてVCの自己点検・評価を定期的に検証することにしたが、活動実践と業務の検証のあり方を検討する必要がある。</p>		<p>VCの自己点検・評価について、そのあり方や進め方について検討し実施に向けて着手する。</p>		

第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	ボランティアセンターの活動を含む本学の社会連携・社会貢献の方針は、「地域は学生・教員の教育・研究のフィールドであり、こうした地域を含む社会連携・地域連携活動は、大学の質的向上や明治大学のブランド価値の発信・向上につながる有効な取組み」である、というこの間における学長方針に基づいている。その下で学生部及びボランティアセンターは、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条【8-44-1】の目的を受けて、正課外教育の観点からボランティア活動や課外活動を通じて行われる社会・地域貢献を推進し、その活動が円滑に行われるように指導・助言するとともに、そうした活動のための条件整備を推し進めてきた【8-44-1】。 各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施している。また、それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会にて、VCの組織の適切性を定期的に検証することで、方針等を共有することができている。					8-44-1 明治大学ボランティアセンター規程
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	各キャンパスで特色のある活動を展開し、これ自体が自ずと本学の社会連携・社会貢献を推進している。各キャンパスVCの活動は次の通りである。 駿河台VCでは、ボランティア団体「Tree」による活動として、①千代田区の高齢者サロンでの企画・運営、②神保町応援隊の要請による「神田すずらんまつり」「神保町ブックフェスティバル」へのボランティア参加、③猿樂町町内会の要請による花の植え替え、④Akiba Smile プロジェクトでの秋葉原での清掃活動、⑤法政大VSPと専修大SKVとの市ヶ谷周辺での合同清掃、⑥エコキャップの啓蒙イベントである「エコキャップ週間」の開催等を実施した。その他、千代田区と連携して「災害救援ボランティア講座」を年2回開催し、講座受講者のうち希望者を募って結成された「災害救援班」による「AED講習」、「災害対応シュミレーション講習」等も実施した。 和泉VCでは、啓発・情報提供活動として、①障がい者と健常者が一緒に楽しめる「ローリングバレー」の企画・実施、②「災害救援班」による「震災クロスロード・ゲーム体験講座」を実施した。サークル・学生の自主的な活動の支援としては、①学生有志による震災復興支援写真展「私たちの復興支援～学生だからできること」の企画実施、②サークル「くればす」による和泉キャンパスの学食にオリジナルメニューを導入して、開発途上国へ1食あたり20円を子どもたちの給食費として寄付する活動「Table ForTwo」を実施、③サークル「MIFO」と学生有志による難民に送るための古着回収や展示・講演会等の啓発活動を支援、④学生有志による視覚障がいのある方も楽しめる「バリアフリー映画祭」を企画・開催、⑤サークル「くればす」による明大生への環境啓発と地域とのコミュニケーションをはかることを目的に、明大前駅周辺の清掃活動を実施した。外部団体との連携による活動としては、①近隣の日本女子体育大附属二階堂高校で、世田谷ボランティア協会の依頼により、ボランティアサークルに所属している学生が「ボランティア活動の体験」を発表、②杉並区地域包括センターと連携して、高齢者施設で行われる「お茶会」に企画・運営で参加、③杉並区福祉会館と連携して、「杉並障がい者福祉まつり」に企画で参加した 生田VCでは、近隣の自然や文化を知る入門プログラム「生田を知ろう」を立上げ、①ボランティアセンターの教員と地域の子どものためのアイデアから「五反田川でコウモリの超音波を聞こう」を開催、②生田地区の団体「三田サポートなわなり」と協働で「野川のカモ観察会」を実施した。また、福島県相馬郡飯舘村の仮設住宅である、松川第一仮設住宅（福島市松川町）のおじいちゃん・おばあちゃんと学生たちとの交流を目的とした「ま〜い」プロジェクトを企画・実施した。その他「ゴミと資源」について学生が中心となって話し合い、生明際において生明祭実行委員会と、ボランティアサークルLINKsが協働で、生明祭のペットボトルゴミ（ペットボトル本体とキャップ）の分別と資源化ができた。 中野VCでは、中野キャンパス周辺を自主的な学生参加により実施している。参加者は中野キャンパスの学生だけでなく、駿河台・和泉・生田キャンパスの学生も参加している。その他、国際日本学部の学生が中心の団体「なかの一ぱる」となって、中野区内在住の外国をルーツに持つ子ども達への学習支援活動を実施した。	各VCにおいて、はボランティア活動する学生数が増加している。駿河台VCでは、約200名、和泉VCでは、約400名増加している。それに伴い、学生の自主企画の持込みや様々な企画への参加があるなど、活動が拡充した【8-44-3】。	中野VCの取り組みについて、各キャンパスのVCと連携を図りつつ、中野キャンパス独自の社会・地域との関わり方、システムやルール作りの検討を急ぐとともに、活動の範囲や輪をさらに推進し発展させていく。 また、今後、ボランティア活動に関わる学生の増加が予想されるため、各キャンパスのVCに学生のミーティングや作業に活用できるスペースや備品を備えることが必要となる。VCをより充実、発展させるためには、全キャンパスに専門知識を有するボランティア・コーディネーターの配置が求められる。	更に行政、他大学、近隣地域との交流及び連携を深め、幅広い活動を目指す。 また、キャンパスを超えた学生のボランティア交流を目指す。	8-44-2 ボランティアセンター運営委員会議事録 8-44-3 2013年度明治大学ボランティアセンター活動報告書（2014/6/30発行）	

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。							
a	●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	管理運営方針は、学生のボランティア活動に関する情報収集、広報活動、相談、支援、調査、人材養成等の実務を通し、ボランティアセンター(以下、VC)の目的を達成することである【9-44-1】。学校法人明治大学予算管理要領第4条第1項の規程【9-44-2】に基づく教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書を作成し対応している【9-44-3】。					9-44-1 明治大学ボランティアセンター規程 9-44-2 明治大学予算管理要領 9-44-3 教育・研究に関する年度計画書
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか							
a	◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	明治大学ボランティアセンター規程を整備している。センター長は学生部長が務め、学長の下でセンター業務を総括し、センターを代表する。					
(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか							
a	●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	VCに関する事務は、学生支援部学生支援事務室が行う。センター担当(他業務と兼務)の各キャンパス学生支援事務室所属の専任職員4名(4キャンパス)と、ボランティア・コーディネーター2名(和泉・生田)と専らセンター業務に従事する嘱託職員3名(駿河台及び和泉・中野キャンパス各1名)を置いている。 和泉と生田キャンパスにボランティア・コーディネーターが1名ずつ配置されたことにより、和泉・生田VCにおいて独自の企画立案や外部団体とのネットワーク形成が一段と進んだ他、他キャンパスと交流する機会も増えており、ボランティア・コーディネーターの存在の重要性が証明されている。	同様に、駿河台及び中野キャンパスVCにおいても、ボランティア・コーディネーターを配置することによって、企画立案を充実させるとともに、活動の範囲と輪を一層拡大させていく必要がある。現行制度においてVCの業務を高度化するために、専任職員の配置も視野に入れる必要がある。現行では、各キャンパスVCともに専任職員は配置されておらず、学生支援事務室職員が兼務で行っており、実務的にみて負担増となっている。このため、各キャンパスVCを統括し、企画・運営をする専任の職員を配置することが急務である。 将来的には、ボランティア活動の活性化を見込み、学生部の下に設置されているボランティアセンターを独立した組織としてさらなる展開が可能か検討を進める必要がある。			将来的には、ボランティア活動の活性化を見込み、各VCにボランティアコーディネーターを始め専任職員を配置しボランティア活動の活性化に対応する。また、学生部の下に設置されているボランティアセンターを独立した組織として更なる展開が可能か検討を進める必要がある。	
(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか							
a	(有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことによって、改善につながっているか。	東京6大学ボランティアセンター連絡協議会を幹事校として実施した。 その他のボランティア関連のフォーラムにも参加し情報収集や交流を実施した。	東京6大学ボランティアセンター連絡協議会において、積極的に情報交換を実施し、今後互いのイベントを共有し、参加できる体制を整えることとなった。	大学のVCのカテゴリーを超えた活動を取り入れるため、様々な機関と交流する必要がある。		各種フォーラムに参加し情報収集すると共に、大学間の交流促進を目指す。	

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</p>							
<p>a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】</p>	<p>明治大学ボランティアセンター（以下、VC）では、9月及び3月の年2回VC運営委員会と、これの合わせた形で開催される各キャンパスのVC活動支援分科会において、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条【10-44-1】の目的に即して活動しているかの自己点検・評価を、定期的実施している。なお、その公表に関しては、各年度における全学的な自己点検・評価のみとなっている。</p>	<p>VCの目的を達成するために、各キャンパスのボランティア活動支援の運営が徐々に円滑化しているし、そこでのプログラムも各キャンパスの特徴を活かしたものに進化・豊富化されている。</p>	<p>自己点検・評価は、次年度の学生部の「長期・中期計画書」に反映し、改革・改善につなげるにとどまっておらず、その公表が独自に行う必要がある。</p>		<p>2013年度から、これまで各キャンパスVCがそれぞれ活動報告をしていたものを1冊に合冊することになった。これを2014年度から、VCにおける自己点検・評価の独自の公表の機会としていく。</p>	<p>10-44-1 明治大学ボランティアセンター規程</p>	
<p>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</p>							
<p>a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】</p>	<p>内部質保証の方針と手続が明確になっていないが、VC運営委員会による自己点検・評価の実施が、事実上これに対応している。年2回9月と3月に開催し、これに合わせてVCの活動実践と業務がVCの理念や目的に適合しているかを定期的に検証している。実施された自己点検・評価の結果を、次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」【10-44-2】に反映することで、改革・改善につなげている。 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会に対応することになっている。</p>		<p>定例化されたVC運営委員会における定期的な活動実践と業務の検証のあり方には検討の余地が残されているとともに、それを踏まえた計画策定作業を行っていく必要がある。</p>		<p>引き続き、VC運営委員会を半年に1度(9月、3月)、定期的に開催する。</p>	<p>まず、VC運営委員会の課題として、VCの目的を効果的に達成する観点から、定期的に業務、組織、管理・運営を検証するとともに、それを踏まえた計画策定作業を行っていく体制を整備する。半年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。VC運営委員会に、自己点検・評価を担当するワーキンググループ等の設置を検討する。</p>	<p>10-44-2 2014年度教育・研究に関する長期・中期計画書(学生部)</p>